

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会

扇山・百蔵山－花を求めて－

猿橋からの扇山(右)・百蔵山



4月上旬、花を求めて、中央線沿線の扇山(1138m)・百蔵山(1003m)に出かけた。このシーズンの土・日曜は、鳥沢駅から扇山の登山口・梨ノ木平行きの臨時バスが出ている。休憩舎などのある梨ノ木平は、さすがに花を目当ての登山客で賑やかである。

9時20分梨ノ木平出発。最初から杉林の中の急なジグザグ登り。名前は定かではないが小粒のスミレが斜面一面を彩り、心が和む。9時45分、セイリ沢の水場通過。すぐ先で山ノ神の祠を見て、しばらく登ると水呑杉。杉林が雑木に変わり最後のジグザグを詰めて10時半、大久保のコルに出た。稜線を右に取り、気持ちの良いカラマツ林の尾根道をたどり、10時45分扇山到着。広々とした草原の山頂は人が多い。春ガスマで展望は今一。折角の富士山もボンヤリ

扇山山頂



百蔵山頂(5月初)

ノ頭までがスゴい下りになる。しかしその後は、道もなだらかになり、単調なアップダウンの繰り返しで、いつの間にかコタラ山を通り過ぎ、最後の登りに一汗かいて12時45分、百蔵山山頂に到着した。

山頂広場のヤマザクラは残念ながらまだほんの一～二分咲き。ともあれ大勢の登山客の仲間入りをして我々も弁当を上げた。風

もなく眠くなるようないい陽気に誘われ、オシャベリに花が咲き、つい長逗留した。1時間の大休止の後、大洞山の鞍部まで下り、後は道を南に取って、杉林の中のジグザグ道をどんどん降りる。山ノ神の鳥居、和田美術館を通り過ぎたところで、ハッと目の覚めるような桜林が目の下に広がった。市営浄水場の周りの谷を埋め尽くす桜が今が真っ盛りである。思いもかけぬ花の饗宴に疲れも吹き飛び、しばし花の下に座りこんで至福の一時を過ごした。

14時半、ようやく腰をあげて車道をブラブラ歩きで下る。

道路沿いにサクラ、ヤマブキ、レンギョウが、今を盛りとあでやかに咲き誇る。15時ちょうど、百蔵山登山口で猿橋駅行きのバスに間に合った。

猿橋駅では、近くの天下の名橋・猿橋を見物し、橋の下から目の辺りに眺める絶妙の力学構造に感動した。昔の日本人はエライ。



浄水場の桜



猿橋(夏)

見えた。一休みの後、百蔵山に向かう。大久保のコルに戻り、そのまま尾根道を西に辿り、大久保を越え、カンバ